

淑徳大学

アーカイブズ・ニュース

NEWSLETTER of SHUKUTOKU UNIVERSITY ARCHIVES

第9号 平成26年(2014)7月31日発行



— 大学構内にあったバンガロー（昭和40年代前半） —

昭和40年(1965)の開学から数年の間、大学の構内にバンガロー(宿泊小屋)が建てられていた。場所は現在の7号館付近で、右の写真にあるように旧グラウンド(現中庭)の脇の木立ちの中に設けられていた。

学生のグループワーク等で使用したり、夏休みにはマハヤナ学園撫子園の児童や淑徳中高校の生徒たちの合宿に使われるなど、ひと夏で200~300人の利用があり、大学の寮生たちも手伝いをしたという。

建設当初、敷地の中央には木造の集会所があったが、その後大学のサークル室に転用され、バンガロー自体も昭和40年代後半には取り壊された。



淑徳大学アーカイブズの仕事とは？

はじめに

淑徳大学アーカイブズが2010年（平成22）4月1日に設立されてすでに4年が経過しました。この間、当アーカイブズでは大学関係ならびに社会福祉関係の諸資料の収集に努めるとともに、『淑徳大学アーカイブズ・ニュース』を発行し、淑徳大学アーカイブズ叢書として『高瀬真卿日記』を刊行するなど、さまざまな活動を行ってまいりました。それらの活動は、大学関係の皆様をはじめ多くの方々のご協力がなくては成り立たないものばかりで、あらためてこれまでご協力いただいた方々にお礼を申し上げたいと思います。しかしその一方で、当アーカイブズがいったいどのような組織なのか、具体的にどのようなことをしているのか、まだ十分に浸透していないのも事実です。

そこで、今回の『淑徳アーカイブズ・ニュース』では、当アーカイブズの仕事の内容をご紹介しますと思います。

【1】アーカイブズと大学アーカイブズ —組織の基礎をなすもの—

まず、「アーカイブズ」という用語はどのような意味を持っているのでしょうか。「国際文書館評議会」は「アーカイブズ」について「個人または組織がその活動のなかで作成または収受し、蓄積した資料で、継続的に利用する価値があるので保存されたもの。記録資料。」（全国歴史資料保存利用機関連絡協議会監修

アーカイブズとは

1. 個人または組織がその活動のなかで作成または収受し、蓄積した資料で、継続的に利用する価値があるとして移管・保存されたもの。記録資料。
2. 移管・収集した資料を整理・目録化し、保存・公開するための組織。
3. 移管・収集した資料を保存・公開するための建物。

『文書館用語集』、大阪大学出版会、1997年）と定義していますが、「アーカイブズ」という用語には、この他にそのような資料を整理し、目録化し、保存・公開するための機関・組織、そしてそのような資料を保存・公開するための建物という3つの意味が含まれています。

淑徳大学アーカイブズに当てはめていえば、大学（学校法人大乗淑徳学園も含む—以下同）の運営や活動の過程で作成・収受される資料（事務文書等）で保存期間が終了したもの（非現用文書）のうち、組織の存立根拠を示すものや業務遂行の証拠となるもの、歴史的に重要なものとして当アーカイブズが収集もしくは移管した資料が「アーカイブズ」であるとともに、その資料を整理し、目録化し、さらに保存・公開に供する組織（淑徳大学アーカイブズ）やその組織が所在する建物（淑水記念館3・4階）も「アーカイブズ」ということになります。

このような意味を持つアーカイブズは、役所などの行政機関はもちろんのこと、大学や企業などの組織においても本来なくてはならないものといえます。それは、アーカイブズというものが単に過去の文書や記録など「古いもの」の保存のみを役割とするのではなく、アーカイブズによる文書の管理や保存を通して、組織としての政策や方針の決定を迅速に進め、業務・事務を効率的に行い、また後述するように社会に対する説明責任を果たすことができるからです。まさに、アーカイブズは組織の存立の基礎としての役割を担うべきものといえるのです。

ところで大学アーカイブズの収集資料についていえば、先に述べた大学という組織が作成・収受した資料（これを「機関アーカイブズ」といい、これらの資料から、建学の精神に基づいた大学の歴史

的な歩みを跡づけることができます)だけでなく、卒業生や退職した教職員など大学に関係する人々に関する資料、また当アーカイブズについていえば、日本の社会福祉に関する諸資料も収集の対象となります(これらを「収集アーカイブズ」といいます)。このうち「機関アーカイブズ」

としての大学の事務文書の移管・保存は当アーカイブズの基本業務と位置づけるべきものであり、これは大学のさまざまな活動を下支えするものとなります。

一般に、大学アーカイブズの場合は親組織である大学によって作成・収受された資料を移管することに加えて、さまざまな収集資料を含めることによって、それぞれの大学ごとに特徴的なアーカイブズの形をとることになります。

淑徳大学アーカイブズはなぜ必要か？

1. 建学の精神に基づいた大学の歴史的な歩みを跡づけ、将来の発展の礎とする。
2. 業務・事務の合理化と効率化を図る。
3. 社会に対する説明責任を果たす。



大学存立の基礎

【2】淑徳大学アーカイブズの仕事

2010年(平成22)10月1日に施行された「淑徳大学アーカイブズ規程」によれば、当アーカイブズの目的は「本学の歴史に関する資料および日本の社会福祉に関する資料の収集・保存を行うとともに、収集資料の公開や研究・展示を通じて、本学並びに日本の社会福祉の発展に資すること」とされ、それによって教職員・学生・保護者・卒業生など本学にかかわるすべての人々が、本学の一員としての誇りと自覚の意識(アイデンティティ)を育む環境をつくることをめざしています。そして、その目的を遂行するために、

- (1) 大学(および学校法人大乗淑徳学園が設置する各部門)の歴史や運営に関する資料、事務文書の収集、整理、保存及び研究。
- (2) 日本の社会福祉に関する資料の収集、整理、保存及び研究。
- (3) 収集資料の公開及び展示。
- (4) 年史の編纂と自校史教育の支援。
- (5) 出版物の編集・刊行。
- (6) その他必要と認められる事業。

の6つの事業をあげています。以下、当アーカイブズの業務をそれぞれ紹介していくことにします。

(1)大学の歴史や運営に関する資料、事務文書の収集、整理、保存及び研究

ここには大きく次の3つの資料が含まれます。

- ①大学という組織が作成・収受した事務文書等で保存期間が終了したもののうち、継続的な利用価値のあるものとして、将来にわたって保存すべきと判断した重要な資料。
- ②大学という組織が発行した刊行物や各種印刷物。
- ③大学の教職員や学生サークル、卒業生など大学に関係する人々から寄贈された資料。



アーカイブズ資料収蔵庫

①は大学アーカイブズの基礎となるべきもので、これらの資料を参照することによって、建学の精神に基づいた大学の歴史的な歩みを跡づけ、将来の発展の礎とすることができるようになります。また、非現用になった事務文書の移管作業の過程で事務文書の管理の合理化を図ることによって、業務・事務の効率化をめざすことが可能になります。ところで、近年よく「説明責任」という言葉が使われますが、行政諸機関のみならず大学においても社会に対する説明責任を果たすことが求められるようになり、この問題への対応は大学の評価にも関わってきています。この点でもアーカイブズは、所蔵する文書等を通して重要な役割を担っているといえます。このように、大学アーカイブズはまさに「大学存立の基礎」を支えるものといっても過言ではないのです。

②は、大学はもとより大学の研究諸機関、それにゼミやサークルなどが発行した新聞・広報誌・雑誌・年報・報告書や紀要類、あるいはさまざまなイベント等のポスターやパンフレット類で、これも大学の活動を示す貴重な資料となります。

③で収集した資料は、これまでの大学の活動の歴史を示すものとして、展示をはじめさまざまな形で活用していきます。

(2) 日本の社会福祉に関する資料の収集、整理、保存及び研究

淑徳大学は「福祉の淑徳」と呼ばれ、わが国で4番目の福祉系単科大学として誕生した歴史を持っています。その淑徳大学の特徴を活かすため、当アーカイブズでは社会福祉関係資料の収集・保存を行っております。

現在、次のような資料を所蔵しています。

- ①鉄道弘済会旧蔵社会福祉関係資料（約3,000点）。
- ②高瀬真卿関係資料（約1,000点）。
- ③吉田久一関係資料（365点）。
- ④吉田久一文庫（2,292点）。

鉄道弘済会は昭和7年（1932）に設立され、国鉄時代にキヨスクを直営していた団体ですが、障害者や児童、老人への福祉事業も行っており、全国で発行されたさまざまな調査報告書類の収集を行っていました。

それらの資料が当アーカイブズに寄贈されたわけですが、それらは昭和から平成にわたる時期の貴重な社会福祉に関する情報といえ、今後の活用が期待されます。

高瀬真卿は明治18（1885）年に日本で2番目となる東京感化院を設立した人物で、関係資料には自筆の日記が含まれており、現在淑徳アーカイブズ叢書として翻刻、刊行作業を行っているところです。

また、わが国の社会事業史研究の泰斗吉田久一氏はマハヤナ学園や淑徳女子農芸専門学校（現淑徳大学短期大学部）での勤務経験があり、淑徳大学の非常勤講師も勤めるなど淑徳と関係の深い先生です。氏の蔵書の一部は淑徳大学に寄贈され、「吉田久一文庫」として閲覧が可能となっています。資料には氏の著作物や写真、書簡類の他多くの講義ノートがあり、氏の研究を跡付けることのできる貴重な資料群といえます。



鉄道弘済会旧蔵社会福祉関係資料



吉田久一展

なお、近年民間の社会福祉施設の貴重な資料が廃棄や散逸の危機に瀕していることから、当アーカイブズがその受け皿としての役割を果たすとともに、現在社会福祉施設における文書管理に関する研究を行っています。これについては「社会福祉施設における文書等のアーカイビングに関する事例研究」として、平成 24 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（C））の助成を受け、東京都板橋区にある児童養護施設「マハヤナ学園撫子園」を事例として文書の管理や保存に関する研究を行っています。

この他、当アーカイブズが置かれている淑水記念館の 3 階には「福祉機器展示室」を設け、千葉県内の特別支援学校の生徒・児童が作成した陶器や絵画などの作品、および障害者や老人の生活支援のための各種福祉機器を展示しており、大学の講義や演習などで活用されています。



福祉機器展示室（左：福祉機器展示 右：特別支援教育作品展示）

（3）収集資料の公開及び展示

先に紹介した「福祉機器展示室」もこれに含まれますが、当アーカイブズではこの他に毎年 1 回特別展を開催しています。特別展を含めたこれまでの展示は次の通りです。

- ①学祖長谷川良信展（常設展・淑水記念館 4 階に平成 22 年開設）
- ②平成 23 年度特別展「近代日本における感化教育の黎明期 —東京感化院と千葉感化院」
- ③平成 24 年度特別展「幕末房総における育児事業の系譜 — 子育て善兵衛・仁兵衛兄弟の実践」
- ④平成 25 年度特別展「大巖寺と生実郷」（淑徳大学創立 50 周年記念シリーズ企画 1）

それぞれの内容については毎年展示図録を作成していますので、そちらをご参照下さい。

このうち平成 25 年度特別展「大巖寺と生実郷」は、淑徳大学創立 50 周年記念の 3 年連続シリーズ展の第 1 弾で、平成 26 年度はその第 2 弾として大巖寺地域の近代を対象とした展示を行います。11 月の龍澤際にあわせて開催する予定ですのでぜひご覧下さい。また、来年度は 3 年連続シリーズのまとめとして、大学創立 50 周年にあわせた「淑徳大学 50 年のあゆみ」展（仮題）を、千葉キャンパスだけでなく他のキャンパスでも開催する予定です。

この他、先述した吉田久一氏関係資料を活用して、⑤「吉田久一展 —社会事業史研究のあゆみ」という展示を行っています。これは、平成 25 年に淑徳大学千葉キャンパスで開催された第 41 回社会事業史学会にあわせ、学会の創立に尽力された吉田久一氏の功績を顕彰するために準備したもので、以後も常設的に展示を継続しています。

今後は特別展の他、大学創立 50 周年記念展をふま



学祖長谷川良信展

え、卒業生などから寄贈された資料をもとに、大学の歴史に関する展示を常設的に行っていきたいと考えています。

(4) 年史の編纂と自校史教育の支援

展示のところでもふれましたが、平成 27 年（2015）に淑徳大学は創立 50 周年を迎えます。これを記念して淑徳大学では現在『淑徳大学 50 年史』の編纂を行っています。編纂事業は平成 21 年（2009）に開始されましたが、当アーカイブズが設立された平成 22 年（2010）以降は当アーカイブズが編纂事務室となり編纂事業を進めています。

なお、この編纂事業で収集した資料は、編纂終了後は当アーカイブズに引き継がれ保存していくこととなります。

自校史教育については、大学全体で取り組むべきこれからの課題ですが、自校史教育の一環として学生や教職員、卒業生の方々に、先に紹介した淑水記念館 4 階の学祖長谷川良信先生の展示を見学していただいています。

(5) 出版物の編集・刊行

当アーカイブズでは、定期的に 2 種類の刊行物を発行しています。

まず、『淑徳大学アーカイブズ・ニュース』を年 2 回、通常 7 月と 12 月に発行しています。発行の目的は当アーカイブズの活動内容を紹介することで、まず第 1 面では寄贈資料や昔の写真などを掲載し、次に大学の歴史や学生生活など、大学にまつわるさまざまな事柄について、おもに大学関係者に執筆を依頼しています。この他展示や刊行物の案内をするとともに、「淑徳大学アーカイブズ日誌」で当アーカイブズの活動の概要をお知らせしています。

次に、毎年 1 冊ずつ刊行しているのが「淑徳大学アーカイブズ叢書」です。これは、当アーカイブズが所蔵する資料を翻刻して公刊するというもので、これまでに『高瀬真卿日記』一～三を刊行しています。

(6) その他必要と認められる事業

当アーカイブズでは、地域連携事業の一環として、平成 23 年（2011）8 月から「淑徳大学アーカイブズ史料講読会」を立ち上げ、毎月第 2・第 4 金曜日の午前 10 時から午後 3 時までいろいろな史料・古文書の解説作業を行っています。現在、千葉市内にお住まいの 6 名の方が参加され、毎回「高瀬真卿日記」や江戸時代の古文書を読み進めています。「高瀬真卿日記」の解説分は淑徳大学アーカイブズ叢書として刊行しています。

（淑徳大学アーカイブズ主任専門員 桜井昭男）

『高瀬真卿日記』三（淑徳大学アーカイブズ叢書 3）の刊行

『高瀬真卿日記』三を本年 3 月に刊行致しました。

本巻には、第 2 巻に引き続き、明治 31 年（1898）9 月から同 37 年（1904）10 月までの高瀬真卿の日記「萩村日記」第九～第十四の 6 冊分を収録しました。

東京感化院は本巻の記述が始まる明治 31 年ごろには在院生も 70 名を記録し、院としての最盛期を

迎えました。また、2年後の明治33年3月には「感化法」が施行され、明治35年に高瀬は院長職を長男の紹卿に譲るなど、東京感化院の運営に大きな転機が訪れる時期にあたります。

高瀬は明治36年には靴墨工場を開設しており、高瀬真卿の活動や東京感化院の運営について、興味深い内容が盛り込まれた一冊です。

発行日 2014年3月20日

価格 本体3,000円＋消費税

取扱い 株式会社ディーエスサービス

東京都板橋区前野町5-5-2

大乘淑徳学園法人本部ビル内 TEL 03(5392)0081



東京キャンパスに「学祖コーナー」開設



2014年3月31日(月)、東京キャンパス2階の廊下の壁面に「学祖コーナー」を設置しました。これは、昨年9月13日に埼玉キャンパスの図書館に「学祖コーナー」を設置したのに続くもので、内容は埼玉キャンパスと同様、学祖の生涯を簡潔に紹介したパネル、学祖が宗教大学(現大正大学)の本科3年生の夏に、50日にわたって静岡・愛知・岐阜・滋賀・大阪・奈良・三重の各県へ社会事業施設の視察旅行に赴いた足跡を紹介した図、それに学祖の肖像写真や学祖筆の「感恩奉仕」の額などを展示しています。

また、埼玉キャンパスの展示と同様、東日本大震災の際に淑徳大学が行った宮城県石巻市雄勝地区での支援活動を記録した映像も見ることができます。

埼玉キャンパスに続き東京キャンパスにも「学祖コーナー」が設置されたこととなりますが、残る千葉第2キャンパスにおいても、今年度中に同様の展示コーナーを設置します。今後学生や教職員、卒業生はもとより、オープン・キャンパスなどで来校されるご父母にもご覧いただければと考えています。

「淑徳大学アーカイブズ史料講読会」のご案内 — 参加者を募集しています —

淑徳大学アーカイブズでは、地域との連携を図り、地元の方々との交流を深めるため、「史料講読会」を開催しています。現在は当アーカイブズが所蔵している明治から大正期にかけての高瀬真卿の日記を読み進めています。今後は当アーカイブズが所蔵する史料はもとより、江戸時代から近代にいたる史料を幅広く読みながら、当時の社会や地域について学んでいこうと思っています。

会は毎月第2・第4金曜日の午前10時から午後3時頃まで、淑水記念館で開催しています。どなたでも参加できますし、その日の都合に合わせて途中から参加いただくこともできます。初心者の方も大歓迎ですので、くずし字が読めるようになりたい方や昔のことに興味のある方はぜひ当アーカイブズまでご連絡下さい。皆さんで楽しく史料を読んでいければと思います。

淑徳大学アーカイブズ日誌（2013年12月～2014年6月）

2013年

- 12月2日 千葉県習志野市の吉岡尚子氏吉田久一文庫の閲覧に来室。
- 12月3日 淑徳大学50年史編集専門委員・出版文化社と打合せ（於池袋サテライトキャンパス）。
- 12月4日 改築のため2011年7月から預っていた社会福祉法人福田会の資料返却。
- 12月4日 淑徳大学創立50周年・学祖50回忌記念事業実行委員会出席（於池袋サテライトキャンパス）。
- 12月6日 学生サポートセンターより『学生団体紹介ハンドブック』寄贈。
- 12月11日 淑徳大学50年史執筆責任者・出版文化社と打合せ（於池袋サテライトキャンパス）。
- 12月12日 全国大学史資料協議会東日本部会第87回研究会参加（於武蔵野美術大学）。
- 12月13日 第53回淑徳大学アーカイブズ史料講読会。
- 12月16日 学生サポートセンターより体育会のアルバムと機関紙『翔』寄贈。
- 12月16日 『淑徳大学アーカイブズ・ニュース』第8号発行。
- 12月20日 50年史打合せ（於埼玉キャンパス）。
- 12月20日 福田会育児院史研究会出席（於東京児童福祉研究所九段研究所）。

2014年

- 1月8日 総合福祉学部小林秀樹ゼミ7名学祖展・「大巖寺と生実郷」展・福祉機器展見学。
- 1月10日 第54回淑徳大学アーカイブズ史料講読会。
- 1月10日 『千葉日報』に「大巖寺と生実郷」展の紹介記事掲載。
- 1月23日 全国大学史資料協議会東日本部会第88回研究会に参加（於明治大学駿河台キャンパス）。
- 1月24日 第55回淑徳大学アーカイブズ史料講読会。
- 1月27日 2013年度第2回淑徳大学アーカイブズ運営委員会（於学園本部理事長室）。
- 1月30日 千葉・関東地域社会福祉史研究会運営委員会出席（於カフェルノアール・ニュー八重洲北口店）。

- 2月6日 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会関東部会協第275回定例研究会参加（於ふるさと府中歴史館）。
- 2月10日 「高瀬真卿関係資料の研究」平成25年度第2回共同研究会出席（於アットビジネスセンター池袋駅前別館）。
- 2月14日 第56回淑徳大学アーカイブズ史料講読会。
- 2月15日 日本アーカイブズ学会2013年度第2回研究集会「地域の中の学校資料とアーカイブズ」参加（於キャンパスポート大阪ルーム）。
- 2月22日 地方史研究協議会館山例会参加（於館山市立博物館）。
- 2月28日 第57回淑徳大学アーカイブズ史料講読会。
- 3月7日 生浜公民館講座「生浜の歴史散歩」受講生20名「大巖寺と生実郷」展見学。
- 3月14日 第58回淑徳大学アーカイブズ史料講読会。
- 3月17日 科研費2013年度第5回アーカイブズ研究会（於マハヤナ学園撫子園）。
- 3月20日 全国大学史資料協議会東日本部会第89回研究会参加（於武蔵野美術大学新宿サテライト room）。
- 3月20日 淑徳大学アーカイブズ叢書3『高瀬真卿日記 三』刊行。
- 3月28日 第59回淑徳大学アーカイブズ史料講読会。
- 3月28日 福田会育児院史研究会出席（於福田会広尾フレンズ）。
- 4月5日 首都圏形成史研究会第91回研究例会・シンポジウム「歴史災害を伝える—災害史展示の現状と課題—」参加（於青山学院大学青山キャンパス）。
- 4月8日 東海大学学園史資料センター開設10周年記念展示「アーカイブズってなあに？」見学（於東海大学サテライトオフィス地域交流センター）。
- 4月9日 コミュニティ政策学部佐藤俊一教授吉田久一文庫閲覧。
- 4月11日 第60回淑徳大学アーカイブズ史料講読会。
- 4月16日 第16期卒業生酒井雅木氏より学生服寄贈。
- 4月20日 日本アーカイブズ学会2014年度大会参加（於学習院大学）。
- 4月22日 千葉・関東地域社会福祉史研究会2014年度第1回運営委員会出席（於カフェルノアール・ニュー八重洲北口店）。
- 4月23日 大学職員チェルトナム・カレッジ関係資料閲覧。
- 4月25日 第61回淑徳大学アーカイブズ史料講読会。
- 4月25日 福田会育児院史研究会出席（於東京児童福祉研究所九段研究所）。
- 4月26日 科研費2014年度第1回研究会（於マハヤナ学園撫子園）。
- 5月9日 第62回淑徳大学アーカイブズ史料講読会。
- 5月10日 科研費2014年度第2回研究会（於マハヤナ学園撫子園）。
- 5月14日 NPO法人ちば・生浜歴史調査会会員16名「大巖寺と生実郷」展見学。
- 5月14日 2014年度第1回淑徳大学50年史編纂委員会（於池袋サテライト・キャンパス）。
- 5月16日 科研費の作業文献調査（於東京都立中央図書館・学習院大学図書館）。
- 5月17日 埼玉育児院日誌の共同校正作業（於東京都墨田区西光寺）。
- 5月19日 科研費2014年度第2回研究会（於マハヤナ学園撫子園）。
- 5月21日 淑徳大学50年史編集専門委員打ち合わせ（於学園本部理事長室）。
- 5月23日 第63回淑徳大学アーカイブズ史料講読会。
- 5月23日 淑徳大学実習教育センターより学生17名「大巖寺と生実郷」展・福祉機器展見学。

- 5月23日 市原古文書研究会会員6名「大巖寺と生実郷」展見学。
- 5月23日 福田会育児院史研究会出席（於福田会広尾フレンズ）。
- 5月24日 徳川記念財団の野本禎司氏大巖寺所蔵の徳川將軍家ゆかりの文化財調査の件で来室。
- 5月29日 全国大学史資料協議会東日本部会2014年度総会参加（於立教大学池袋キャンパス）。
- 5月31日 千葉・関東地域社会福祉史研究会第1回定例研究会出席（於東京都墨田区西光寺）。
- 6月2日 淑徳大学50年史編集専門委員打ち合わせ（於学園本部理事長室）。
- 6月5日 金子保淑徳大学50年史編集専門委員資料調査のため来室。
- 6月6日 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会関東部会平成26年度総会及び講演会参加（於埼玉会館）。
- 6月12日 金子保淑徳大学50年史編集専門委員資料調査のため来室。
- 6月12日 学習院大学大学院アーカイブズ学専攻阿久津美紀氏アーカイブズ見学。
- 6月13日 第64回淑徳大学アーカイブズ史料講読会。
- 6月13日 総合福祉学部米村美奈ゼミ学祖展・福祉機器展見学。
- 6月13日 淑徳大学社会福祉研究所より紀要・報告書類・書籍・業務日誌・会議資料等寄贈。
- 6月19日 金子保淑徳大学50年史編集専門委員資料調査のため来室。
- 6月24日 総合福祉学部村上信教授と植草学園短期大学先生・学生6名学祖展・福祉機器展見学。
- 6月26日 金子保淑徳大学50年史編集専門委員資料調査のため来室。
- 6月27日 第65回淑徳大学アーカイブズ史料講読会。
- 6月28日 日本歴史学協会史料保存利用問題シンポジウム参加（於駒澤大学駒沢キャンパス）。
- 6月30日 淑徳大学50年史編集専門打ち合わせ（於学園本部理事長室）。

淑徳大学アーカイブズでは、大学及び大乗淑徳学園に関係する資料を広く収集しています。

- ①大学及び学園が発行した新聞・雑誌・広報誌・年報・報告書等。
- ②学生時代の写真・講義ノート・教科書・手帳・日記・記念品・記章・各種書類等。
- ③学生時代に使用していたもの。
- ④大学及び学園のサークルや研究会の活動を示すもの。

上記以外の物でも結構ですので、お気づきのものがあればお気軽にご連絡下さい。

また、大学及び学園の各部署や学部学科、機関で保存期間の満了した文書、あるいは廃棄の対象となる文書が発生した場合は、大学アーカイブズまでご一報下さい。



淑徳大学

アーカイブズ・ニュース 第9号

NEWSLETTER of SHUKUTOKU UNIVERSITY ARCHIVES

発行日 2014年7月31日

編集・発行 淑徳大学アーカイブズ
〒260-8701

千葉県千葉市中央区大巖寺町200

TEL 043-265-7526 (直通)

e-mail archives@soc.shukutoku.ac.jp